

もものくいんぼう すけっちびより

第45回

100年続く

木彫り熊の発祥の町へ

ずっと行きたかった八雲町^{やくも}に、今年は2度訪ねることができた。どちらも目的は木彫り熊の発祥の地として有名な八雲町郷土資料館で、木彫り熊の展示（コレクション）を拝見することと、八雲町の文化である木彫り熊を大切に継承しようとイベントなどを開催しているショップ&ギャラリー「kodamado（こだまど）」へ行くことだった。

八雲郷土資料館の2階の木彫り熊の展示室に入ると八雲町の代表的な作家の木彫り熊などがたくさんあって、一つ一つの熊の表情が違い見応えがある。それにも増して興味深かったのは、徳川義親公^{とくがわよしちか}がスイスのベルンから持ち帰った木彫り熊の玩具などの展示だ。小さな木彫り熊がモデルとなり、冬場の開拓民の副業として試作が始まったそうだ。木彫り熊はこの100年の間、ブームになった時もあったが、時代の波に押され衰退していった歴史もある。にもかかわらず、最近また注目を集め、木彫り熊が生まれ続けている。

kodamadoでは年内のみだが、木彫り熊100周年を祝い月替わりで八雲の作家ごとに木彫り熊を展示している。町内の個人からも貸出され展示されている木彫り熊は、一人の作家の成長や奥深さ、また町民との関係も垣間見えて、とても素敵な展示だった。

八雲町の名前は明治14年尾張徳川藩の徳川慶勝公^{よしかつ}が古事記の「八雲立つ〜」から名付けたそうだ。雲が湧き出る良い場所というような意味が込められている。木彫り熊も人の手でコツコツと彫られてきた奥深さが、時代を超えて雲が湧き出るように何度も人を魅了し続けている。開拓民のために木彫り熊を推奨した徳川義親公もきっとあの世で喜んでいるに違いない。





すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: さざやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。